

パパーニンの北極漂流生活と その文学的表象

岩本和久

●要約

スターリン時代の文学的空間において、英雄はしばしば、「偉大なる家族」の「息子」として表象された。本論では、北極での調査によって英雄とみなされることになったパパーニンについて、同時代の文学的テキストの中で、いかに表象されているのかを再検討する。

パパーニンは北極の氷上で10ヶ月間生活し、周囲の環境の調査を行った。過酷な環境から無事に帰国した彼は、英雄として賞賛されることとなった。

イサコフスキイの詩「4人の同志」では、パパーニンが「同志」として提示され、国民との連帯が強調されている。一方、パパーニンを含む国民と向き合っているのは指導者であり、危機の際には指導者から救いの手が差し伸べられるとされる。

ヴィシネフスキイのパパーニン伝では、北極調査よりもむしろ、国内戦に参加したというパパーニンの経歴が強調される。北極調査というユニークな経験はそこで、革命に鍛えられた若者というソヴィエトの神話に変えられてしまう。

●キーワード

パパーニン

イサコフスキイ

ヴィシネフスキイ

ソヴィエト文学

スターリニズム